

【ポスター発表（6）】

団体名： 名古屋 YWCA



YWCAはキリスト教を基盤に世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ女性の社会参画を進め、人権や環境が守られる平和な社会を実現する国際N G Oです。日本YWCAは1905年に、名古屋YWCAは1933年に設立しました。名古屋YWCAでは、現在ボランティア活動、語学教育事業、日本語教育事業、女性のための相談事業などの活動を行っています。



外国人子ども日本語教室「ガリ勉クラブ」



東日本大震災被災者保養プログラム「いりやあせツアー」



名古屋 YWCA 学院日本語学校

日本語教育事業

語学教育事業

名古屋 YWCA

ボランティア事業

女性のための相談事業



日本語教師養成講座



日本語教育事業

seminar@nagoya-ywca.or.jp

www.nagoya-ywca.or.jp

ガリ勉クラブキャラクター

名古屋YWCAでは1970年代末より日本語教室や日本語教師養成のためのプログラムを行ってきました。1984年には日本語教師養成講座、1989年には日本語学校を開校しました。2011年度より文化庁の委託をきっかけに「外国人子ども日本語教室ガリ勉クラブ」、2013年度より「外国人子育てサポート教室バンビーナ」を開始しました。



文化庁「生活者としての外国人に対する日本語教育事業」委託

バンビーナキャラクター

2011年度「外国人中学生のための日本語教室ガリ勉クラブ」： 地域日本語実践プログラム（A）

2013年度「外国人ファミリーのための日本語教育事業」： 地域日本語実践プログラム（B） 次ページ参照⇒

2014年度「外国人の子育てと生活 日本語支援事業」地域日本語実践プログラム（B）

- ① 外国人子育てサポート教室「バンビーナ」
- ② 外国人生活者のための土曜漢字クラス
- ③ 外国人のための子育てフェスティバル
- ④ 外国人生活者支援を理解するためのボランティア研修会

平成 25 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラム B

ポスター
セッション

事業実施概要

事業名称	外国人ファミリーのための日本語講座と地域連携プログラム			
地域の課題	名古屋市近郊はフィリピン人や中国人の日本人配偶者が多く在住するが、子どもができる日本語を学ぶ機会が得にくい。日本語や日本の生活情報が得られないままに生活することには大きな困難が伴う。生活情報と日本語を安心して学べる環境が必要である。就学年齢のこどもの日本語教育の必要性はもとより、外国人の親が日本語と日本社会について学ぶ機会が求められている。			
事業の目的	外国人家族、日本人配偶者やその子どもとして日本で生活する外国人が日本語の環境の中で健康を保ちながら安全に楽しく生活できるように日本語学習を通じてサポートする。地域連携においては、「標準的なカリキュラム案」の活用方法、「やさしい日本語」について検討し、理解を深めるワークショップを行う。また日本文化教室を通じて日本人との交流の機会を設ける。			
事業内容	取組1		取組2	
	名称	外国人ファミリーのための日本語講座 「生活と子育ての日本語講座」	名称	日本文化教室
	内容	外国人が地域社会の一員として健康で安全な生活を送れるように、4つのテーマ（「生活の日本語」「子育てと教育」「生活・マナー」「健康と安全」）に分け、日本語と生活情報が学べる授業の実施をした。なお、教室では希望者に保育も行った。	内容	外国人生活者と日本人が日本文化の講座を一緒に受ける事で、日本文化の知識を深めるとともに、日本語を使ったコミュニケーションの機会を作った。日本文化教室は全5回「着物教室」「刺繍教室」「おりがみ教室」「習字教室」「生け花教室」を開催した。
	対象	ひらがな、かたかなが書ける外国人父母	対象	日本文化に興味のある外国人、日本人
	時間	1回 2時間× 15回(全30時間)	時間	1回 3時間× 5回(全15時間)
	人数	18人(託児7名)	人数	30人
	取組3		取組4	
	名称	名古屋YWCA外国人ファミリーにほんごサ マースクール	名称	地域連携プログラム 日本語ボランティア 講座「生活日本語を考える」
	内容	「生活者としての外国人」の予備軍である子どもたちの支援は多文化共生社会の責務であると考え、当該地区に住む外国にルーツを持つ子どもたちを対象として、生活に根付いた日本文化とともに日本語を教えた。また、毎週一回保護者のための生活漢字教室、子どもと一緒に日本文化を体験する日も設けた。	内容	地域と連携をはかり、日本語ボランティア養成ワークショップと題して全3回のワークショップを開催した。 第1回「標準的なカリキュラム案」の活用方法(名古屋YWCA開催)／第2回「標準的なカリキュラム案」の活用方法(春日井市)／第3回「やさしい日本語」講座(一宮市)
	対象	日本語を母語としない子ども(10歳～18歳)とその保護者	対象	地域の日本語ボランティア
	時間	1回 3時間× 10回(全30時間)	時間	1回 4時間× 3回(全12時間)
	人数	37人	人数	56人
連携体制	【取組1】「健康と安全」の授業にて企業との連携(AED講習) 【取組2】日本文化教室より各分野の専門家と連携 【取組4】自治体(春日井市、一宮市)との連携			
成果と課題	【成果】当初企画段階で名古屋とその近郊に住むと予想していた国(フィリピン、中国)以外の外国人も多数参加することで、地域の実情をより詳しく知ることができた。特にここ近年のベトナム人の増加を実感した。また春日井市と一宮市と行った日本語ボランティアワークショップでは、標準的なカリキュラム案の具体的な活用方法や「やさしい日本語」の概念の周知を目的に開催したが、いずれも有益な時間で今後の活動に取り入れたいという意見を多数得た。特に第3回目で開催した「やさしい日本語講座」はメディアでも取り上げられ、地域の外国人の実情を知ってもらうとともに、やさしい日本語の普及にも貢献することができた。 【課題】地域に住む「生活者としての外国人」の定期的な現状把握とニーズ調査／「生活者としての外国人」のニーズに合った企画立て／日本語のレベル差、個人のニーズ差への対応の仕方の検討／事業の企画の仕方(例：情報提供と日本語学習を分ける等)の検討／生活に密着した実践的な事業の開催／外国人が地域と交流する場の提供／託児付き日本語教室開催において、国や行政の理解と補助			
発表者から一言	名古屋YWCAでは、子どもがいることで日本語を学ぶ機会が得にくい父母のために、託児付きの日本語教室の開催をしています。当日は、各取組のチラシやシラバスの配布を計画しています。			